

<報道発表資料>

E-mail: a3140-09@pref.saitama.lg.jp

カテゴリー:お知らせ

令和8年4月24日

ムサシトミヨの推定個体数が増加しました ～直近5年で4,754尾から9,448尾へ～

(同時発表元:熊谷市)

この調査は、熊谷市の元荒川にのみ生息し、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」で定める希少種の魚であり、「県の魚」「市の魚」でもあるムサシトミヨについておおむね5年に1回実施しています。



ムサシトミヨ

1 調査概要

本調査は、ムサシトミヨの生息状況を把握し、種の保護管理及び県指定天然記念物区域の環境保全対策を実施するための基礎資料とすることを目的としています。

(1) 実施機関

ムサシトミヨ保全推進協議会 (事務局:熊谷市環境政策課)
関係機関協力のもと埼玉県水産研究所の技術支援を受け実施

(2) 調査日

事前調査 令和8年1月28日(水) ※水草の繁茂状況等の計測
採捕調査 令和8年2月3日(火)、4日(水)

(3) 調査区域

元荒川の上流部(全長約2.4km)を次のとおり5つの調査区域に設定

I区 熊谷市ムサシトミヨ保護センターから下流 445メートル
※県指定天然記念物区域

II区 I区の下流端から下流V区合流地点まで 769メートル

III区 II区の下流端から下流 436メートル

IV区 一級河川源流起点付近 430メートル

(水量が少なく水草も自生していないため採捕調査は実施せず)

V区 埼玉中央漁業協同組合排水路 261メートル

2 調査結果

(1) 推定個体数

ムサシトミヨの推定個体数 9,448尾

※推定個体数は、これまでの調査と同様に、採捕区間の採捕尾数に水草面積等を勘案して算出

表1 ムサシトミヨ推定個体数(尾)

区	平成 18 年	平成 23 年	平成 28 年	令和 3 年	令和 8 年
I	8,137	16,593	1,199	4,650	6,312
II	1,728	1,272	334	104	561
III	2,826	2,133	37	0	444
IV	0	0	0	※	※
V	3,066	2,657	775	0	2,131
計	15,757	22,655	2,345	4,754	9,448

※IV区は水量等の状況から未実施とした。

前回令和3年2月調査の4,754尾と比較して増加しています。

また、前回調査でムサシトミヨが採捕できなかったⅢ区とⅤ区でも採捕できたことから、生息域の拡大が期待されます。

(2) 生息環境

水草の繁茂状況は、前回調査と比べ、ほぼ全区域で増加傾向にありました。

表2 生息地の水面積に対する水草被覆度

区	平成 18 年	平成 23 年	平成 28 年	令和 3 年	令和 8 年
I	0.49	0.39	0.60	0.11	0.43
II	0.16	0.14	0.07	0.08	0.25
III	0.16	0.10	0.07	0.41	0.44
IV	0.15	0.19	0.03	※	※
V	0.14	0.09	0.17	0.21	0.11

※IV区は水量等の状況から未実施とした。

また、外来生物であるアメリカザリガニの捕獲数がⅠ区及びⅤ区で増加しました。調査結果の詳細は下記 URL からご覧いただけます。

<https://www.city.kumagaya.lg.jp/about/soshiki/kankyo/kankyoseisaku/yaseigairaitomiyo/R8tyousakekka.html>

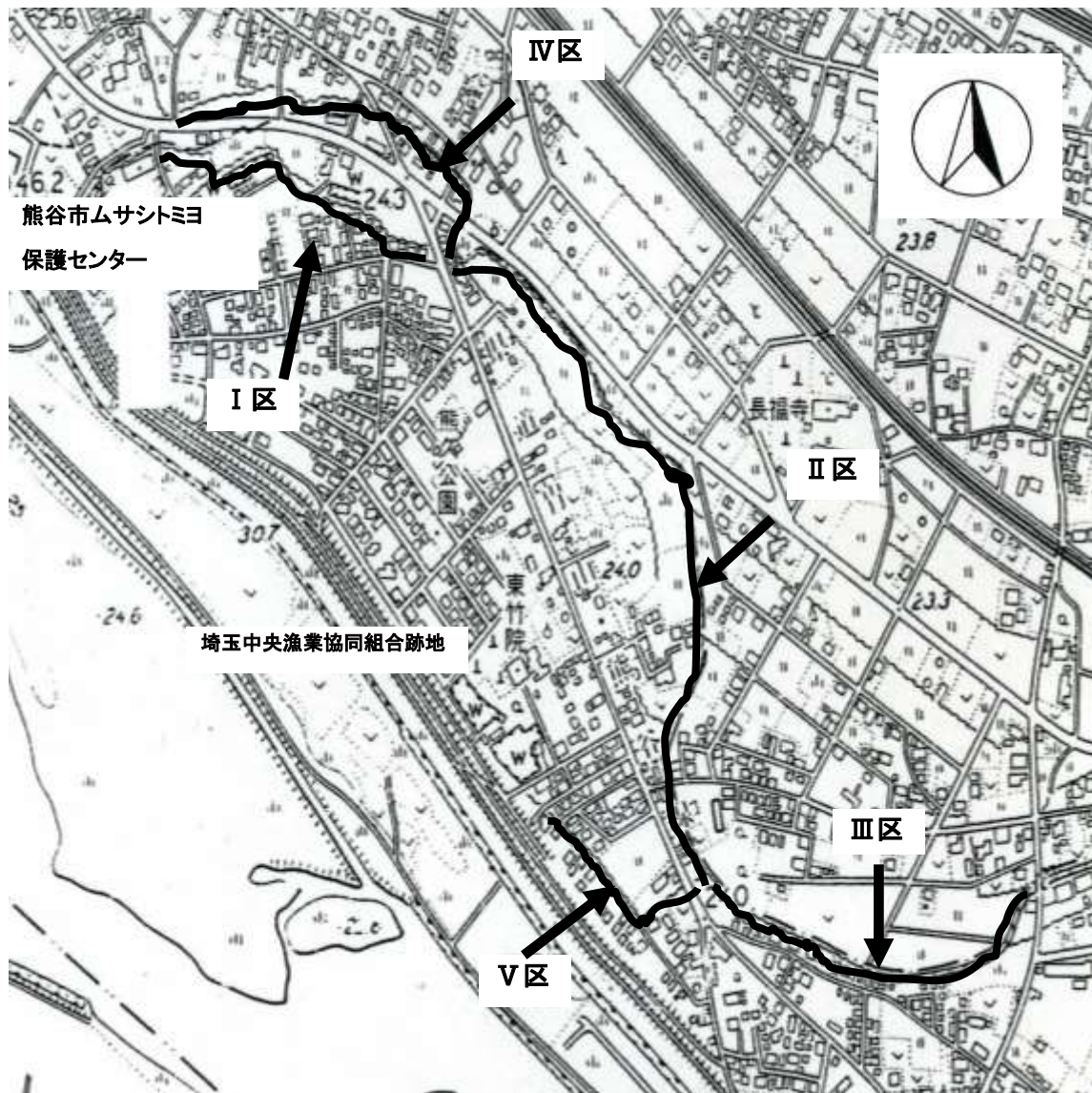
3 今後の保全対策について

埼玉県では、希少種保護等により、生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ」を推進しています。その一環として、ムサシトミヨが一層安定して生息できるよう、引き続き環境整備を推進してまいります。

【ムサシトミヨ（トゲウオ科トミヨ属）】

体長3.5～6センチメートルで、水温10～18度の冷たい湧き水があり水草が茂る場所に生息します。寿命は約1年。絶滅危惧ⅠA類（環境省・埼玉県カテゴリー）、県内希少野生動植物種。

ムサシトミヨ生息個体数調査区域図



- I 区 熊谷市ムサシトミヨ保護センターから 445 m 下流まで (文化財区間)
- II 区 I 区の終点から 769 m 下流まで (中央漁協排水と元荒川の合流点まで)
- III 区 II 区の終点から 436 m 下流まで
- IV 区 大雷神社前に流れる水路から I 区終点までの 430 m
- V 区 埼玉中央漁協跡地から流れる水路から III 区始点までの 261 m